

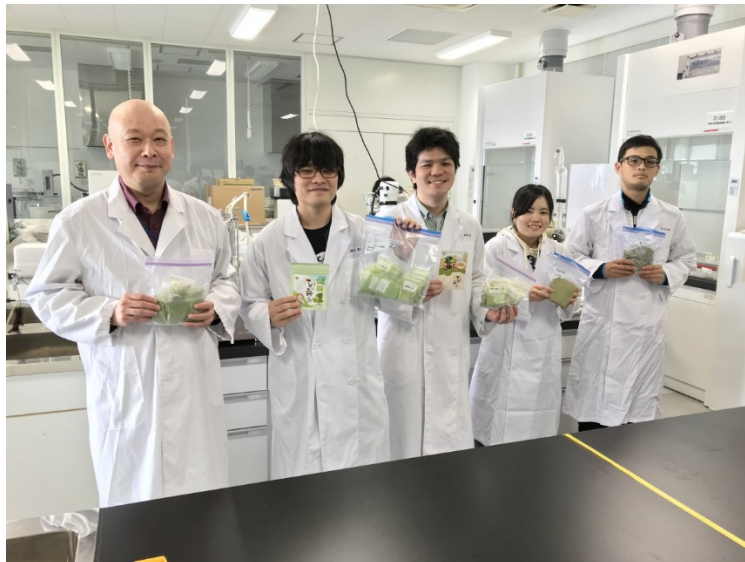
生物資源工学科紹介（第3回）

2019年5月17日 伊東昌章

皆さん、こんにちは。沖縄高専生物資源工学科の伊東昌章（いとう まさあき）です。

今回は、伊東研究室で取り組んでいる産官学連携（さんかんがくれんけい）による新しい商品を開発する研究について紹介したいと思います。産官学連携とは、あまり聞きなれない言葉かと思いますが、産（会社）、官（国、県、市町村）、学（学校）が、連絡を密に取り合って、一つの目的のために一緒に物事を進めることを意味します。伊東研究室では、産（浦添市シルバー人材センター）、官（浦添市）、学（沖縄高専）の3者で力を合わせて、沖縄に自生する桑であるシマグワを使ったお茶などを開発しています。これまでに、使いやすくパウダータイプにしたシマグワのお茶や、焙煎して風味の良いシマグワのお茶を開発しました。また、それらがどのような有用な機能があるのかを調べる研究も行いました。研究の結果、シマグワのお茶には、生活習慣病の一つである糖尿病の予防につながることで期待できる血糖値が上がるのを緩める効果があることを見出しました。現在は、さらなるシマグワの有効活用を目指して、伊東研究室の卒業研究生と一緒に、シマグワを使った「紅茶」の開発に取り組んでいます。このような産官学連携による研究を進めることで、沖縄県内で新しい商品ができ、県内外に販売していくことで、地域の活性化につながることを期待できます。皆さんも、沖縄高専で、地域の活性化につながるような生物資源を対象にした研究に取り組んでみませんか？

沖縄高専では、創造研究という選択科目があり、入学した1年生の段階から研究室に所属して研究に取り組むことができます。生物資源工学科では、13名の教員が在籍し、さまざまな特徴ある研究に取り組んでいます。実験をしてみたいという皆さんは、ぜひ、沖縄高専生物資源工学科の門を叩いてみてください！



開発したシマグワを使ったお茶